

発達支援コラム⑤

こどものはったつ相談室

第5回テーマ 「子どもの特性 に合った学習・ 支援方法」



毎日の子育てが少しでも楽になるよう、小川小学校の通級指導教室「まなびの教室」教諭 森亜矢子先生によるコラムを6回にわたり連載しています。

問合先 こども相談センター

TEL 626-1165 FAX 626-2187

タイプ別学習法

漢字学習を例にとつてみましょう。「耳タイプ」の子は、唱えて耳で聴いて覚えることが効果的です。例えば、「片」という字を、「たてはらい、たて、よこ、かつくん」と言いながら書いたり、「名」を「タローと名前よぶ」というように、呂合わせを唱えて覚えたりする、というようにです。書き順も一緒に覚えられて、一石二鳥ですね。「目タイプ」の子は、漢字の成り立ちがわかるイラストを見て覚えたり、漢字かるたや漢字ビンゴなどで遊びながら覚えたりまするといいでしょう。

九九を覚える時、唱えて覚えることが主流になっていますが、「目タイプ」の子にとっては、覚えにくい場合があるかもしれません。唱えてもうまく覚えられない場合は、「九九一覧表」をリビングやトイレなど、よく目に入る所に貼つてみてください。普段から眺め続けることによつて、その関係性や法則を発見し、九九に興味を持つようになると思います。

このように、タイプによつて、効果の出る学習方法が違うのです。うまくいかない方法を嫌々繰り返していても、身に付いていきませんよね。人はそれぞれ違った強みを持っていきます。お子さんの情報の入れ方の特徴や得意分野をつかみ、その子に合った方法を見つけ、楽しく効果的な学習をしていけるといいですよ。

情報の取り入れ方

私たちは、情報を「耳」から入れたり「目」から入れたりしています。例えば、知らない場所に行く時、人に「4つ目の信号を右に曲がつて2軒目です」と教えてもらうのは「耳」から、地図を見ながら探するのは「目」か

ら入れていることになり
ます。電話は「耳」から、
メールは「目」からです
ね。情報はどちらから入
れても大丈夫、という人
もいれば、どちらかがと
ても得意(苦手)、とい
う人もいます。まず、お
子さんはどのタイプなの
かをつかむと、学習に生
かすことができます。

「目タイプ」の子にとっては、